ISM研究会のお知らせ

File□ Edit□ Data□ Help

99 ISM 研究会

日時

07 月 11 日

14 時 30 分

場所

立教大学 5号館

院生控室 教室

テキスト／テーマ

『どこへ行く　社会主義と資本主義』

編者／著者	出版社	範囲
山口正之・森岡孝二・大西広	かもがわ出版社	山口・大西担当分

前半期 第6回／通算 第62回

ご案内－詳細

前半期は今回で終わりということで，一回で終わるテキストを選びました。今回のテキストは『どこへ行く　社会主義と資本主義』（山口正之・森岡孝二・大西広著，かもがわ出版社，かもがわブックレット No.29，1990年4月）です。

山口・大西さんは資本主義的生産の中に未来社会への移行の道を模索してきた研究者です。しかしまた，“資本主義はひとりでに未来社会に進むのだ。”という客観主義的傾向を持っています。この点を批判したいと考えています。

報告者

人名	割当
窪西 保人．	山口担当分
今井 祐之．	大西担当分

出欠

- (●) 出席
- ( ) 欠席

OK　Cancel　Replace

前半期は今回で終わりということで，一回で終わるテキストを選びました。山口・大西さんは資本主義的生産の中に未来社会への移行の道を模索してきた研究者です。その点では，出口の見えない闘争において労働者あるいは国民に向かって“いい社会を目指してとにかく戦いましょう”などとお説教する連中に較べれば，彼らは遥かに優れています。しかしまた，まさにこのような彼らの長所は，同時に，“資本主義はひとりでに未来社会に進むのだ。朝起きたらいつの間にか，共産主義になっているのだ。労働者階級が階級闘争してもしなくても，共産主義への移行は歴史的必然なのだ。と言うことは，労働者階級は（個人としてはともかく）階級としてはなにもしなくてもいいのだ”という客観主義的傾向をもたらさざるを得ません。この点では，これまでに読んできたドラッカーと通じるところがあります。

これに対して，“資本主義はなんでも敵対的なのだから，資本が行うことにはなんでも反抗しよう。そしてこの戦いは反抗主体の主体形成にかかっているのであり，反抗主体の主体形成は悟りを開いたものの努力にかかっているのだ”という主体性理論（一揆主義理論）があります。このような一揆主義理論に対しては，客観主義理論は比較にならないほど優れています。従って，今後は批判的理論をどんどん取り込んでいくということが予想されます。それだけに，その害悪は非常に大きいものになると思います。

「社会主義の現状をどう考えるか」（山口正之）は現存社会主義国を国家資本主義国として把握する立場から，崩壊したソ連を分析しています。それとともに，これからの共産主義運動のあり方を模索しています。

「資本主義と社会主義の現実から学ぶ」（大西広）は，生産力と資本主義との対応関係から，資本主義を分析しています。やはり現存社会主義国を国家資本主義国として把握する立場から，現存社会主義のもとでの国家の専制と資本主義のもとでの資本の専制との同一性を探っています。それとともに，共産主義社会への移行の出発点を先進資本主義国の中に求めようとしています。

なお，この本は品切れになっているかもしれません。図書館などでコピーすることができない方，また図書館などでこの本を見つけることができなかった方は，**遠慮なしに，今井のところにまでお申し付けください。**至急，コピーを郵送いたします（コピー代，送料を，いずれも実費でいただきます）。

前半期の予定はこれで終了します。もちろん，報告希望者がいれば，夏にでも研究会を開催することは可能です。夏休み中に報告をご希望の方はご一報ください。

ISM研究会では，今後，取り挙げてほしい――あるいは取り挙げるべき――テキストの候補を募集しています。いいものがありましたら，お教えください。予定では，今回で『どこへ行く社会主義と資本主義』は終わるはずです。ですから，今回の研究会の終わりに，後半期のテキストを決めたいと考えています。